校内体制等のチェックポイント

年度当初と年度の途中に、複数の先生でやってみると、学校の強みと弱みが見えてきます。

校内教育支援委員会 体制の整備整備

チェック	確認のポイント
	学級担任が支援に困った際に、相談やサポートする体制がある。
	校内教育支援委員会※1を年間暦や月暦に位置づけている。
	幼・保育園/小学校からの引き継ぎ文書に担任が目を通している。
	校内教育支援委員会に管理職も参加し、情報を共有している。
	校内教育支援委員会で、校内体制での連携を検討している。
	校内教育支援委員会で学びの場の見直しについて検討をしている。
	特別支援教育に関わる校内研修をしている。
	特コが近隣の幼保・小・中・高・特校の特コと連絡を取り合えるネットワークが構築されている。
	地域連携マップが作成され、外部機関との連携情報が共有されている。
	通常の学級担任が、学びの場の見直しの手続きを知る機会がある。

特別支援学級 / 通級による指導

※1：子どもの実態把握や支援の在り方、今後のより適切な学びの場を検討し、共通理解する。

チェック		確認のポイント
特　学	通　級	
		担任が保護者や本人と相談して「個別の指導計画」※2を作成している。
		「個別の指導計画」に自立活動の目標を記述している。
		「個別の指導計画」に基づいた学びの評価と支援の評価を行っている。
		「個別の教育支援計画」※3を保護者や福祉関係者等と共有している。
		通常の学級担任が、特別支援学級や通級による指導の参観をしている。
		特別支援学級や通級担当者が通常の学級の参観をしている。
		通常の学級担任を交え、校内教育支援委員会を実施している。
		指導内容として、自立活動の内容を扱っている。
		国語、算数・数学など限定された教科のみの学習場所となっていない。
		通常の学級での学習内容や支援方法について、通常の級担任と相談している。
		特別な場合を除き、特別支援学級で週９時間以上の指導が継続している。
		特別支援学級の時間割を考慮し、学校全体の時間割を作成している。

※3：本人や保護者、担任それぞれの願いを集約し、具体的な指導目標や指導内容、指導方法を明確にした計画。

※4：家庭及び地域、福祉、医療、労働などとの連携を図り、長期的な視点で教育支援を行うための計画。